

らいぶ LIVE 創 REATOR つくりえいたー

NO.62
研究広報誌

教育研究発表会
2012の
お知らせ

CONTENTS

- 研究会開催に当たって.....1
- 研究会各授業PR.....2
- 学習紹介：～「反復と変化」/表現に生かせる鑑賞教材～ザ・ビートルズ《LET IT BE》～...3
- 学習紹介：最高の5C野菜を育てよう～ひとと出会い、体験を通して学びを深める～...4
- 学習紹介：“説明する活動”により思考が深まる.....5
- 学習紹介：単元計画と教材選択の視点～この子たちと出会わせたいのは～.....6
- 学習紹介：“えっ!タネ、たべてるん!”～あさがおのタネで気付いた野菜のタネの不思議～7
- 学習紹介：授業記録の活用について～源平合戦の時代を学習した後で～.....8

学びをデザインする子どもたち ～3つの対話の充実によって～



◆ごあいさつ

いじめ事件とその対応が、大きな社会問題となっています。原因究明が司法の場で問われる状況は、これからの教育のありようにも影響しそうです。しかし、こういう時でも、あるいは、こういう時だからこそ、未来を見つめた地道なあゆみの大切さを思います。すでにお知らせしましたように、「学びをデザインする子どもたち～3つの対話の充実によって～」をテーマに、本年度の教育研究発表会を開催いたします。

「学びをデザインする」とは、課題解決のプロセスに見通しをもつことであり、その主体を「教師」だけではなく、「子ども」にも置いてみようという新たな試みです。一方、サブテーマに掲げた「3つの対話の充実」は、私たちが積み上げてきたもので、対象・他者・自己との対話を意味します。まだまだ十分ではありませんが、研究授業を参観いただき、あとの協議会を通して忌憚のないご意見がいただければ喜びです。

午後には、劇作家・演出家であり大阪大学教授でもある平田オリザ先生と、東京大学大学院教授の秋田喜代美先生のお二人をお招きし、対談を予定しています。いま、教育をはじめさまざまな分野でご活躍の先生方がお二人、という贅沢なプログラムです。どのようなお話を聞かせていただけるか、今から楽しみにしています。

お忙しい折ではありますが、お誘いあわせのうえご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

学校長 菊川 恵三

期 日 平成24年10月27日(土)

期 日	8:15	8:40	9:00	9:10	10:10	11:10	12:40	14:00	15:45		
日 程	受付	概要発表	移動	研究授業 I	移動	研究授業 II	移動	協議会	昼食	全体会	対談



対談/講師
★秋田喜代美先生
東京大学大学院教授
★平田オリザ先生
大阪大学教授

主催・会場
後 援

和歌山大学教育学部附属小学校
和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会 和歌山大学
和歌山県市町村教育委員会連絡協議会 和歌山県連合小学校校長会
岸和田市教育委員会 阪南市教育委員会 泉南市教育委員会 岬町教育委員会

らいぶスクエア

年・組 教科	授業者 単 元	研究発表会 各授業 PR
1-A 図 工	上田 恵 まわってパッ!	2枚の絵、回して見ると、あら不思議、2枚の絵が…！ 知りたがり屋、試したがり屋の1年生がいろいろな2枚の絵を回してみたいと瞳キラキラ、アニメーションの第1歩。
1-B 生 活	居澤 結美 あきをいっぱいひろげよう!	子どもたちがそれぞれの思い・願いをもって秋を表現していきます。初めは小さな秋ですが、音や様子・作ったものなど、教室いっぱいに秋を広げていくのが楽しみです。
1-C 体 育	渡辺 圭 多様な動きをつくる運動遊び	「楽しいふぞくっこパークをつくろう」というめあてをもって、一人ひとりが考え、活動する授業です。「3つの対話」で運動の楽しさを広げる子どもたちにご期待ください。
2-A 国 語	静川 郁子 「お手紙」	子どもたちは、かえるくんと、がまくんになって、話したり動いたりしながら、二人の思いを感じ取っていきます。3つの対話を通して、二人の気持ちに迫る子どもたちの様子をご覧ください。
2-B 生 活	中西 正子 お城のどうぶつ園	動物を今までと違う視点・方法で観察したり、飼育員さんや市民ボランティアの方々と交流したりします。和歌山公園動物園の「わくわく」をいっぱい見つけられるでしょうか。
2-C 算 数	西村 文成 かけ算	子どもたちが楽しみにしている「かけ算」。かけ算の意味理解を深めるためにも、数図ブロックや図を活用し、根拠を説明する活動を大切にしながら取り組んでいきます。
3-A 理 科	馬場 敦義 ものと重さ	ものが違うと体積が同じでも重さが変わるなど、重さと体積について、実際にやってみたこととイメージ図で考えることで自然現象の本質をさぐり、知の更新を促していきたい。
3-B 算 数	小谷 祐二郎 重さ	計器による測定を通して、子どもたちに重さの量感を感じさせます。測定活動の中から聞こえる子どもの言葉を拠り所に量感をより確かなものにしていければと考えています。
3-C 社 会	梶本 久子 防災レンジャー参上! ～くらしを守る消防～	「え!!附属小が避難所になるんだって?!」消防署の学習から防災に興味を持ち始めた子どもたち、3年生が考える『防災』は新しい発見がいっぱい。熱意あふれる話し合いをご覧ください。
4-A 国 語	湯浅 明菜 「ごんぎつね」	自分のお気に入りを紹介するのが大好きな4Aの子どもたち。新美南吉作品ではどんなすてきを見つけられるかわくわくしています。一緒に新美南吉の世界を読み味わいませんか。
4-B 総 合	谷口 佳都司 3年後の「紀の国わかやま国体」	「紀の国わかやま国体、楽しみだな。」と子どもたちが思えるように、今和歌山県が開催に向けての取り組みなどに触れ、少しでも国体が身近なものになることを目指します。
4-C 理 科	辻本 和孝 ものの温度と体積のヒミツをさぐろう!	本時では金属の温度変化によって体積が増える現象をイメージ図で表現し共有することで考えを深めていきます。果たして4Cちびっ子博士たちはヒミツを解明できるのでしょうか?
5-A 算 数	宇田 智津 比べ方を考えよう	「どちらがいいかな。」子ども達にとって身近な題材から比べ方を考えていきます。自分の考えを説明したり話し合う中で、単体量あたりの考え方のよさを探っていきます。
5-A 音 楽	江田 司 詩と音楽を味わおう	北原白秋作詞・山田耕筰作曲「待ちぼうけ」を、プロの朗読や2人の声楽家の演奏で聴き比べます。また、楽譜からも詩の言葉と音楽の結び付きを読み解いてこの曲を味わいます。
5-B 国 語	小杉 栄樹 「大造じいさんとガン」	優れた叙述に着目しながら、複数の椋鳩十作品を並行読書し「椋鳩十ワールド」の魅力に迫っていきたいと思います。「椋鳩十ショーウインドウ」を作成し、友だちと交流します。
5-C 総 合	矢出 大介 捕鯨について考えよう	和歌山県東牟婁郡太地町の捕鯨漁師さんとの出会いを大切にして、捕鯨について本気で考えました。子どもたちが思いをもって話し合う姿をご覧ください。
6-A 体 育	則藤 一起 タグラグビー	最近取り組まれることも多くなった“タグラグビー”。ステキな友だちを見つけ合う中で、仲間とかかわり、その運動がより楽しくなるようにみんなで考えていきたいと思っています。
6-B 社 会	松尾 光孝 睦奥宗光と小村寿太郎	条約改正へと向かっていく時代の中、生き様の似た睦奥宗光と小村寿太郎。その2人ととことん調べ、生き様に迫りました。子どもたちの真剣に話し合う姿をご覧ください。
6-C 家 庭	藤原 ゆうこ 命をつなぐ食を考えよう ～もしもの時に備えて～	“生活力”を育むことをねらいとして取り組んでいる家庭科学習。「3日間生きぬくためには？」をテーマに、今、自分達ができること、備えておきたいこと（もの）について考えます。
12F 国 語	北川 勝則 1年「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 2年「わたしはおねえさん」	物語の好きなところを見つけ、紹介します。互いの考えや意見に触れ、自分の読みを深めていければと思います。また、低学年なりに主体的に学び合う姿も見て頂きたいと考えています。
34F 理 科	中西 大 3年「ものと重さ」 4年「もののあたままり方」	「もの」を題材にし、科学的な見方・考え方を育てていきます。また、中学年における子どもたちの主体的な学びと、そのための支援について考えていきたいと思っています。
56F 算 数	土岐 哲也 5年「面積」 6年「場合を順序よく整理して」	図形や数の規則性を発見したり、活用したりしながら問題解決を目指します。子どもたちが、主体的に学び合えるような支援の在り方について、考えていきたいと思っています。

～「反復と変化」／表現に生かせる鑑賞教材～
ザ・ビートルズ《LET IT BE》
《6年生の実践から》

江田 司
(音楽専科)



◆ビートルズで夫婦の対話はすむ!?

6年生授業でビートルズの名曲「LET IT BE (レット・イット・ビー)」を取り上げています。この曲の魅力はピアノソロで始まる曲の斬新さ、声の心地よさ、全編ほぼ5音音階でできた懐かしさを誘う旋律、執拗なまでの歌詞(LET IT BE)のくり返し、控えめなバックコーラス、ドラムスを中心に単純から複雑へと変化するオーケストレーション(楽器法)等々、数え上げればきりがありません。

ちょっとした教材提示の工夫で、子どもたちはこの曲を「レリビー」と言いながら、ずいぶんと気に入ってしまいます。家に帰ってからの夕食の話題にもものぼらせるらしく、父さんが古いレコードを引っ張り出して来たり、母さんが学生時代のこれまたセピア色の楽譜を出して来たりして、しばらくは家の中でビートルズの話やきかれ、いろんな曲の鼻歌も聴かれるのだそうです。

◆表現教材(器楽/音楽づくり)との関連

授業では題材「いろいろな響きを味わおう」の鑑賞教材として扱います。「LET IT BE」は1番を4回くり返します。サビのくり返しやインストルメント(楽器だけの演奏)があって「単純→複雑」の音楽的構造があります。関連して器楽教材「ラバース コンチェルト」を扱う際に、教科書の7つのパートの他に副次的旋律2パートを加えた全9パートを、「単純から複雑へ4回くり返すとしたらどうする」という音楽を構成する課題を出して、ここでの鑑賞経験を生かすようにしています。

20世紀「心の聖書(バイブル)」 「LET IT BE」

ポール・マッカートニー(ロンドンオリンピック2012の開会式登場)がピアノの弾き歌いをする。他のメンバー、ジョン・レノンとジョージ・ハリソンはバックコーラスに回り、ジョンはひたすらベースを弾くが途中、ジョージは3番前半ギターソロ、ドラムスのリンゴ・スターは2番からのシンバルワークを多彩に演じて曲を盛り上げていく。CDは、現在リマスター盤が発売されている。

◆教材提示のひと工夫

- ①まず、1番だけを聴かせてこの曲の題名を考えさせます。何度も出てくる「レリビー」に気付いたらしめたもので、もし「レット・イット・ビー」という子どもがいたら、この曲をすでに知っています。
- ②次に1番で何回出てきたか、指折り数えさせてみます。正解は7回ですが、黒板に4分割した数直線(音直線)を引いてき、出てくるたびにチェックを入れると曲の構造が視覚的にはっきりします。
- ③2～4番それぞれについても予想させながら聴かせていきます。
- ④2番は7+5(サビ部分のくり返し)=12回/3番は前半がインストルメントになるのでサビ部分の5回のみ/4番は2番と同じで12回です。(下の写真は、「音直線」上に回数チェックしたもの)
- ⑤それぞれの部分の特徴を発表します。

1番: ピアノソロとバックコーラス。

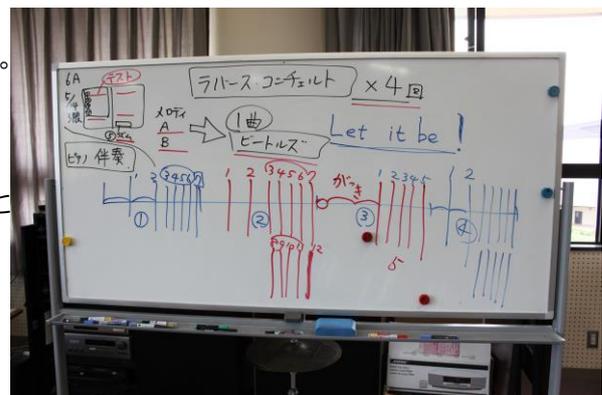
2番: (ハイハット)シンバルが2拍目4拍目に入り、サビの部分では一転して8分音符になり、パーシンバル中央の厚みある部分を打ちます。「チンチンチンチン」の音がきこえてきます。また途中からベースが入ります。

3番: 少し間奏を挟んで楽器だけの演奏となります。

4番: いろんな楽器が入りもっとも激しい伴奏となります。

◆アレンジに生かす

「ラバース コンチェルト」の楽器選びをさせたあと9つのパート全部を鳴らして合奏します。これを4番目として1～3番を考えさせます。徐々に打楽器を加えてベースも途中から入る。また、主旋律を3番の前半をお休みさせて副次的な旋律を前に出すなど、鑑賞で学んだことが生かされます。



最高の5C野菜を育てよう

～ひとと出会い、体験を通して学びを深める～

総合的な学習の時間
5年C組担任
矢出 大介

体験を通して学ぶとは、教材との出会いを体験にかかわることから見つけ出し、「ひと・もの・こと」とのふれあいの中で自分たちが学ぶ事象を考えるきっかけをもたせることだと考えています。そこで、体験的な学びとのかかわりの中から見出したよさを実感し、ひととの主体的なかかわりをもとうとする子ども、大人への憧れをもって学びを続ける子どもを育てたいと考えて学習を計画しています。

- 最高の5C野菜をそだてよう～1人ひとりがこだわりをもって～
- 「出会いを大切にする」



調べ学習では、なるべく具体的な「もの・こと」を大切にす、学び方を身に付けるような学習の工夫を考えています。また、4月から「学び方を獲得する」ために、発表・調べ学習のルールは、上手に発表できている子・工夫して調べ学習をしている子の学び方を共有することで身につけていきました。本単元は、附属小学校の敷地の畑で野菜を育てるといふ身近な教材がきっかけとなり、地域の野菜作りにかかわる「ひと・もの・こと」と直接触れ合うことで、野菜や地域の大人を身近に感じるようになりまし。そこで出会った方々が、子どもたちの学習意欲を高めてくれました。出会った方々に憧れの気持ちを持ち、自分たちもそのようなこだわりのある野菜を育てたいという気持ちをもつことができました。また、単元を通して、様々な活動の中で自分たちの身の回りにある野菜やそれに関わる方々についての興味を高めることができました。そして、いろいろな立場の人と接し、学校だけでなく、現実の社会とのつながりを持ったことで、より一層多面的に追究する楽しさを感じるようになりました。

○個をみとる

単元を通し、個人の調べ学習、作文等の活用により、1人ひとりのものの見方・考え方の違いをみとっていきました。また、子どもも作文や調べ学習を活用することで自分自身の見方・考え方の変容に気づくことができました。それにより、次の学びへの意欲を高めることができ、教師が子どもの考えを記録することで、1人ひとりの子どもの考えの変容をみとることができました。そして、子どもの考えの背後に何があるのかを考えた上で、どう育てたらいいかという視点を持ち、具体的な姿を思い浮かべて個に応じた指導を繰り返すという姿勢が重要だと感じています。本単元でも、体験やひととの出会いを通して感じたこと、調べたことなどをみとり、学びを深めるために必要な支援を続けていきました。それにより、最初は野菜に興味のなかった子どもが、スーパーに行って野菜の産地、育て方、特徴などを何時間も調べたり、家で野菜を育てたり、多くの子どもが夏休みにも関わらず電車・バスを乗り継いで野菜の世話をしにくるほどになりました。



研究会の見どころ～捕鯨について考えよう～

1学期は野菜作りを取り上げ、第1次産業である野菜作りにこだわりをもっているひととの出会いを大切にす、野菜を育てる苦勞や楽しみを学びまし。それは、体験を通して地域のひととの出会い、本気で学ぶことで和歌山の良さ、次世代の人のことを考えて仕事をしている人の素晴らしさに気づき、自分たちの住んでいる地域を愛し、自分たちにも何かできないのかと考える力を育てていきたいと考えたからです。

そして、2学期は、第2次産業ではあるが、反対運動をされながらも思いをもって捕鯨を続ける太地町の漁師さんとの出会いを大切にす、その漁師さんを学習の入り口にして捕鯨について取り上げていきます。研究会では、子どもたちが本気で考え、学び合う姿を楽しみにしておいて下さい。

“説明する活動”により思考が深まる

算数科
2年担任
西村 文成

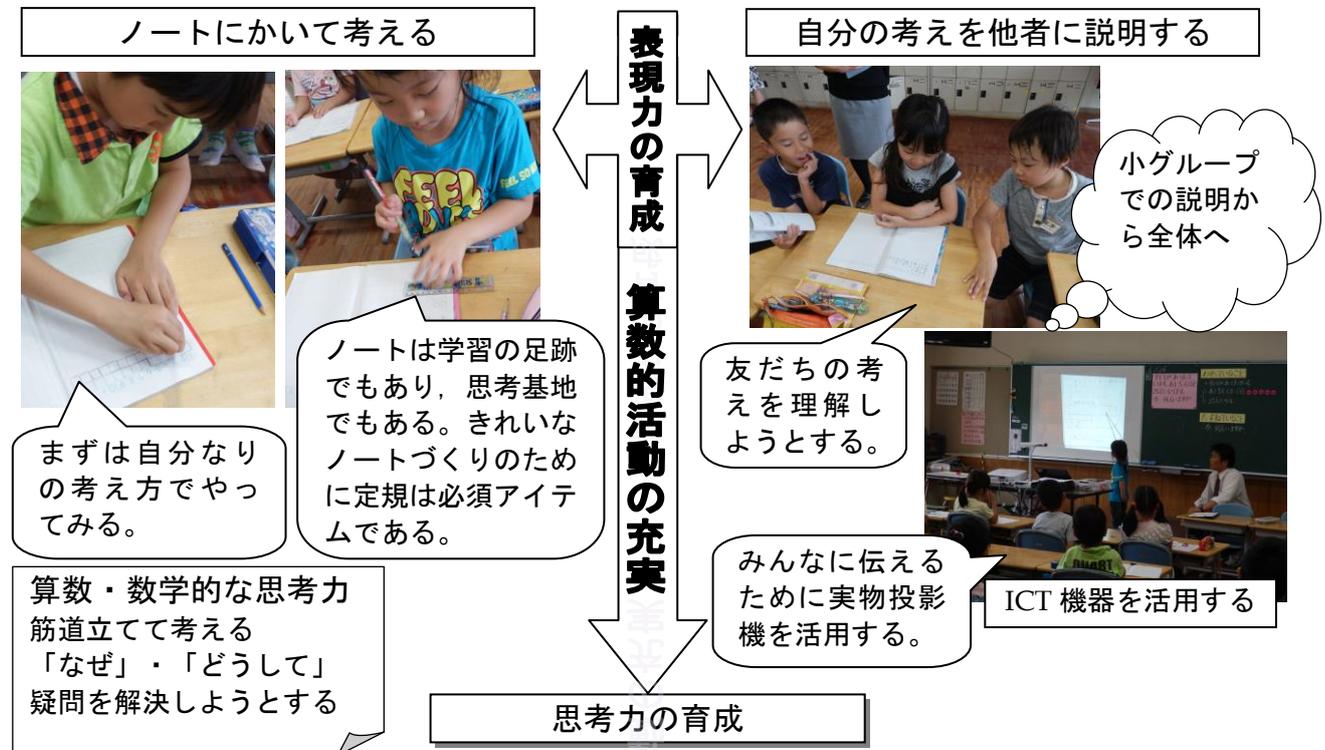


算数科において「算数・数学的な思考力」、すなわち筋道立てて考える力を育成したいと思い日々の実践をしています。そして、その力を育成するために、「説明する活動」が重要であると思い取り組んでいます。では、「算数・数学的な思考力」と「説明する活動」にどのような関係があるのでしょうか。

他者に対して「説明する」とときには、まず自分なりの考えを持たなければなりません。そして、自分の考えを他者にうまく伝えなければなりません。また、聴く側も話し手の言いたいことを推測しながら聴き取らなければなりません。ここに大きな意味があるのではないかと考えています。子どもが自ら考え、他者に伝えることで学びが深まり、どの考え方に納得できるか吟味する場面が生まれると思うのです。子どもたちの“説明する活動”により、筋道立てた考え方を導き、学びが深まる可能性があると考えています。

もちろん、“説明する活動”のためにしっかりと準備と手立てを打たなければなりません。その一つとしてノートづくりに力を入れています。自分の考えを説明するときに、口頭で説明するよりも視覚的に訴えることができるものがあると、よりわかりやすくなります。自分の考え方をノートに文や絵、図などでかき表すことで思考の整理ができるという効果もあります。ノートにかきながら考える子も出てくるでしょう。ノートにかいて考える子が増えてくれば、難しい課題にも挑戦する子が育っていると考えてよいのではないのでしょうか。それから ICT 機器を活用します。ノートに書かれた自分の考えを他者に伝えるとき、黒板に書いては時間がかかりますが、実物投影機を使うとすぐに説明することができるのです。

また、ノートに書かれた自分の考えをペア・小グループで説明し合います。大勢の前だと緊張してしまう子もペア・小グループだと話しやすくなるのです。さらに聴く側も友だちのノートをすぐ近くで見られるので、反応しやすい状態で聴くことができます。これにより、全員の“説明する活動”が保障されます。



子どもたちは、よりわかりやすい考え方、伝えやすい表現を追求していきます。“説明する活動”により、自己・他者・対象との対話が深まり、算数・数学的な思考力の育成につながるのではないか。

単元計画と教材選択の視点 ～この子たちと出合わせたいのは～ 4年生国語「心の動きを詩で表そう」

国語部
4年A組担任
湯浅 明菜



本学級では、朝の会に音読タイムを設け、毎週1編の詩を読んでいます。しかし、詩を書いた経験はあまりないという子どもたち。そこで、**詩の創作にチャレンジすること**にしました。指導者としては、**子どもたちが感じたことを素直に表現できるような学習にしたい**と考えました。本校では、4年生1学期に1泊2日の「高野山合宿」を行っており、これが小学校生活初めての合宿となります。そこで、子どもたちが書く詩の題材を「高野山合宿」とすることにしました。

詩を書く前に、**どのようなことを書くのかを学ぶ時間**が必要であると考え、まずは1編の詩を読むことにしました。本実践で取り扱った詩は、工藤直子作「たび」。初めてひとりで旅をする男の子が、不安に思いながらも楽しい気持ち、そして側にいない母を思う気持ち、という心の移り変わりを描写した詩です。4Aの多くの子にとって高野山合宿は親の元を離れる初めての経験なので、そんな子どもたちと詩「たび」とを出合わせたいと思いました。また、**比喩、繰り返し、擬音語**なども学べると考えました。

次に、**どんなときに自分の心が動くかを意識させたい**と考えました。そこで、心が大きく動くときを意図的に仕掛けることにしました。そこで活用したのは絵本「しゅくだい」（宗正美子原案、いもとようこ文・絵、岩崎書店、2003）。この話の中でしゅくだいとは、**家族とのだっこ**です。絵本の読み聞かせのとき、宿題がだっこであると発表されたとき、家で宿題について話すとき、だっこをしてもらったときなど、4年生の子どもたちの心は大きく動くと考えました。

このように、単元のゴールを決め、そのために必要な学習を考えてできた単元計画は次の通りです。

第1次 詩「たび」を鑑賞しよう。

①「たび」の読み方の工夫を考えて音読しよう。

第2次 だっこをしてもらって、心の動きを詩に表そう。

②「しゅくだい」の読み聞かせを聞こう。だっこのしゅくだいをしよう。

③だっこのしゅくだいのときの心の動きを詩に書こう。

第3次 高野山合宿で感じた心の動きを詩で表そう。

④高野山合宿での心の動きを詩で表そう。

⑤4Aの詩人たちの詩のすてき！を見つけて伝えよう。



グループで詩を読み合う。友だちの書いた詩に興味津々。

しゅくだいはだっこ

(子どもの作品)

せんせいが

きょうのしゅくだいだっこですといった

わたしはなぜだっことおもった

わたしのところがドキドキ動いた

いえにかえって

きょうのしゅくだいだっこなんといった

お母さんがなんと思ったかわからない

だっこをしてもらってことばにできないやさしさが
こぼれおちてきた

しゅくだいがだっこだったのはびっくりだったけど
こんなひがあってもいいなとおもう



付箋紙に書いたコメントを渡す。コメントを渡すのも渡されるのも楽しい瞬間。



どの詩にコメントしようかと、全員の詩をじっくり鑑賞する。

今回は、詩を2つ書きましたが、特にだっこのしゅくだいの詩には「しゅくだいのことを言うのが緊張した」「重くなったなあって言われてうれしい」「お母さんはいいにおいがした」など素直な言葉で表現され、内面を引き出すことができました。今後も、子どもたちに寄り添った学習を展開していきます。

「えっ！タネ，たべてるん！」

～あさがおのタネで気付いた野菜のタネのふしぎ～

生活科
1年B組
居澤 結美



○「アサガオのタネいっぱいとれたから，野菜のタネもとってくる！」

1年生は，4月の終わりからアサガオを，5月初旬から一人1苗の野菜を育てています。野菜は“ナス・トマト・キュウリ・ピーマン・オクラ・トウモロコシ・エダマメ”の7種類です。夏休みの間，アサガオはそれぞれの家庭に持ち帰りお世話をします。野菜は学級園で育てているので，ほとんど見る事ができません。夏休みが終わり，多くの子が「先生！アサガオのタネ，いっぱいとれたよ。見て！」とうれしそうに発表していました。すると何人かの子が「そっか，野菜のタネもってこなあかね」「うん。行こ！行こ！」と休憩時間に勢いよく学級園に走って行きました。しかし，「タネぜんぜん落ちてなかった」「ぼくのトマトのタネどこにもなかった」「もう鳥とかに食べられたのかな」と残念そうに，ふしぎそうに帰ってきました。「野菜のタネってどんな？」と聞くので“みんなの育てた野菜のタネはどれでしょう”と“タネクイズ”をすることにしました。

○“タネクイズ”をしよう「みんなの育てた野菜はどれでしょう！」

子どもたちは夏野菜のタネをほとんど知りません。なぜなら，夏野菜を育てる時期が4月下旬から5月初旬ごろになるため，タネからではなく，苗から育てるからです。その際に，“自分の育てる野菜の苗はどれでしょう”という「苗クイズ」をしました。においを嗅いだり，色や葉っぱの形などを見たりして，できあがった野菜を考えながら当てていきます。もちろん苗だけでは分かりにくいのでみんなが当たることは少ないです。そして，苗植えのときに「アサガオのタネ分かったけど，やさいのタネ分かる？」と聞くので，「夏休み終わったら分かるかもよ」と話していたのです。



トウモロコシ エダマメ キュウリ ピーマン トマト ナス オクラ カボチャ

話し合いの内容

「ぼくらが食べてるのといっしょだからです」「えっ。食べてるのがタネになるん？」「けど，トウモロコシ（えだまめ）やで。これしかないやん」

「野菜パーティで食べたとき，プチプチした丸いのがあったやん」「ネバネバの？」「あっそっかあ，けどあれ，真っ白やったで」「ほっといたら黒くなるんちゃう」

「野菜パーティで，ピーマン切ったときいっぱいあったのに，めっちゃにってる」「あれってタネやったんや！」「いっぱい捨てたよ」「ああああ」「けどあれ白やった」「これは茶色やで」

ナス 「おうちで食べてたら，これといっしょのはあったもん。絶対ナス」
 トマト 「トマトも食べてたらドロドロしたのあるやん，それとにってるで」
 「ああ分かる！ぼくそれいややからとってもらってる，そしたら食べれるもん」
 ナス 「こっちのたねはなんか毛みたいなんついてるやん。ナスのはついてないもん」

「ええ！タネ食べてるの？」

○理由や根拠をもとにできる話し合い

それぞれの班がこれまでの生活経験と合わせ，理由や根拠をもって話し合いを進めていました。すると，すべての野菜のタネをピッタリ当てることができ，子どもたちは大喜びでした。この授業後，再び畑に行ってみると「黄色のシボシボのキュウリの中におんなじのあった！」「茶色のオクラの中にいっぱいタネある！」「すごい！」と大興奮でした。子どもたちは，アサガオのタネから，野菜のタネについて気付いていきました。生活経験は生活科での話し合いの根幹です。気がつきがこれまでの経験と結びついていくような実践を重ねていきたいと考えます。

次は冬野菜の“タネクイズ”です。冬野菜はタネから育てます。“ニンジン・ダイコン・カブ・ホウレンソウ・ハクサイ・ネギ”で夏野菜のタネは実を食べていたということを理由や根拠を基にして考えたので，多くの子がはずれました。

「冬野菜はどうやってタネできるん？」収穫・タネとりこれから育てていくのがとても楽しみです。

授業記録の活用について

～源平合戦の時代を学習した後で～

社会科
6年B組担任
松尾光孝

◇授業記録を読み取ることで◇

社会科の研究授業が終わって反省するとき、本時の課題を問われることがよくあります。今回平安時代から鎌倉時代へと時代が転換する時期を捉え、課題を「あなたなら平清盛につくか源頼朝につくのか、どっち？」として学習に取り組みました。しかしこの課題では一人ひとりの問題であり、他の人と話し合う必要がないため、結局自分だったら頼朝、自分だったら清盛と言えればいいだけとなります。つまり、強いてみんなで話し合う必要がなく、この話し合いを突き詰めればそのいく末は、「みんな人によって考え方が違うね。」で終わることになってしまうのです。

この単元で大切にしたいことは、一所懸命という言葉にもあるように「武士がいかに土地を大事にし、自分の土地を守ってくれる武士の頭領を待ち望んでいた時代」であったかに子どもたちが迫ることにあります。

平清盛と源頼朝、どっちについたらいいのか、「一番大切な要素はなんだ？」という課題にするのならばやはり、個々バラバラに答えられてしまう課題ではダメであり、収束可能な課題にする必要がありました。

今更ながらですが、6年B組が一つの武士集団だと考えて、「さて、どうする6年B組。我々は平清盛につくのか、源頼朝につくのか？」などと一人ひとりの問題とするのではなく、集団としてどちらにつくか決めねばならない…とするのならば、話し合う必要性も生まれてきたのかもしれない。そして6年B組が減びないように、6年B組の大事なものをずっと守れるように…と考えていけば、6年B組にとって大切な土地を守ってくれる頭領を選ぼう…といった話し合いになった可能性もあります。

今年度、附属小学校では研究主題を「学びをデザインする子どもたち」と決めて取り組んでいます。「デザインする子どもたちは？」ということでまだまだ試行錯誤しているところも多いですが、本校では研究を推進するために4つのポイントを挙げています。そのうちの(4)授業記録の活用が自分の実践を考察するのにとても有効であることが分かりました。課題がよかったかどうか、この(4)授業記録の活用を心がけたことで分かったことです。

他にも授業記録を読み返すことで、子どもたちとの学びのデザインの跡が見えてきます。子どもたちに寄り添っていたのか。子どもたちと共に目標に向かう単元構成をしたか。目標にふさわしい課題づくりをしたのか。子どもたちは自分たちで話し合いを深められていた(デザインできた)か。等々、いろいろなことを読み取ることができました。

子どもたちに学びのデザインをさせるということは子どもたちだけに任せていいというわけではありません。授業記録を読んだときに、授業者自身がしっかりとデザインして授業にあたっていたかという反省点をもつことができました。今回の授業を通して、子どもの学びのデザインと教師としての学びのデザインがうまくマッチするよう、心がけなければならないと考えています。



From Editors

『らいぶ・創りえいた一』いかがだったでしょうか。

本校ホームページにはカラー版を掲載しています。
ご意見・ご感想をお寄せ下されば幸いです。

編集委員：松尾， 静川， 居澤， 小杉， 上田， 則藤

和歌山大学教育学部附属小学校
〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号
TEL (073) 422-6105
FAX (073) 436-6470
URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>
E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp